



宇都宮市立図書館にある

## 浄瑠璃坂の仇討ちに関する本

### ◆仇討ち事件の概要を知る

『宇都宮市史 第6巻 近世通史編』(宇都宮市史編さん委員会／編 1982)【K210】  
P39～45「奥平家の内訌」

宇都宮市の歴史を調べるための基本資料。おもに『中津藩史』を使って事件の一連の流れを記述している。

『宇都宮藩・高徳藩』(坂本俊夫／著 現代書館 2011)【K210/サ】【213.2】

宇都宮市出身の著者が、近世宇都宮の歴史について、詳細な研究をもとに読みやすい文章でまとめている。事件の三十年後に起こった赤穂浪士による討入りとの関係も言及している。

### ◆物語として読む

『忠臣蔵の手本 浄瑠璃坂の敵討—宇都宮藩騒動記—』(原田種純／著 新人物往来社 1989)【K210.5/ハ】

中里介山の『浄瑠璃坂のあだうち』を物語の主軸にしつつ、事件に直接関わった川俣三之助の手記である「川俣三之助覚書」を参考史料として内容を加えている。

『遺跡と史料 興禅寺物語』(徳田浩淳／著 下野新聞社 1990)【K210/ト】

浄瑠璃坂の仇討ちにつながる刃傷事件が起こった興禅寺。この寺にまつわる物語を著し、その関連史料を掲載している。

『江戸三大仇討のひとつ 決闘・浄瑠璃坂』(大森隆司／著 下野新聞社 1991)【K930/オ】

上記2冊の影響を受け、現地の取材のもと、より演出に富んだ物語に仕上がっている。

『浄瑠璃坂の仇討ち』(高橋義夫／著 文藝春秋 1998)【913.6】

文庫や大活字本も刊行され、広く読まれている。これまでの記録には登場しない、生駒尚平という若者を中心人物に据えている。

『浄瑠璃坂の討入り—忠臣蔵への道』(竹田真砂子／著 集英社 1999)【210.5/タ】

浄瑠璃坂の近くに住んでいた著者が、ところどころで史料を使って考察しながら描いた浄瑠璃坂の仇討ち。

## ◆ゆかりの土地を訪ねる

『うつのみや歴史探訪』（埴静夫／著 随想舎 2008）【K202.1/ハ】【213.2】

古代から明治に至るまでの宇都宮の史跡を、地域別にまとめている。P40～41に興禅寺が紹介されている。

『宇都宮の旧跡』（宇都宮市教育委員会／編 1989）【K202.1】

宇都宮市内各地に残る旧跡を広く紹介している。P38～42で興禅寺をとりあげ、浄瑠璃坂の仇討ち事件の概要も書かれている。

『図説 茂木の歴史』（茂木町史編さん委員会／編 1994）【K230/モ】

興禅寺の刃傷事件によって切腹した、奥平内蔵充の子源八が、仇討ちを決意して深沢村に潜伏していた。後年、そのお礼として石段を寄進した法幢寺を紹介している。

## ◆古書

『下野歴史 第四十一号～四十五号』（下野歴史学会／編 1979）複製

『下野歴史 第五十号』（下野歴史学会／編 1984）【K205】

浄瑠璃坂の仇討ち事件は、江戸時代からいくつもの本に書かれていた。

『下野歴史』四十三号には「事実記録・寛文復讐記」（寛延4年）、同五十号には貞享年間に  
出回った「義のかたきうち物語」がそれぞれ復刻されている。

◎国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを利用して

『仇討 奥平源八郎』（伊豆の屋主人／著 愛知堂 1895）

『浄瑠璃坂』（渋柿園／著 春陽堂 1896）

『浄瑠璃坂のあだうち』（中里介山／著 春秋社 1923）

『仇討 浄瑠璃坂』（直木三十五／著 平凡社 1929）

市内の図書館（中央・東・南・上河内・河内）で閲覧できます。

詳細はお問い合わせください。

この他にも資料がありますので、図書館職員にお気軽にご相談ください。

館内閲覧のみの資料もございます。

---

宇都宮市立中央図書館

〒320-0845

宇都宮市明保野町7番57号

TEL : 028-636-0231 FAX : 028-639-0740

9:30～19:00（金曜休館）

---